

年 間 授 業 計 画

科 目 名		数学 I		単位数	2 単位	学年・学科	1 学年 国際ビジネス科	展 開	必修
教科書番号 教科書名		数 I 7 1 5（数研出版） 最新 数学 I			副 教 材 名		3 round 数学 I + A（数研出版）		
科 目 の 目 標		数学的な見方・考え方を働かせ、数学科的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。数と式、2 次関数について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を培い、数学のよさを認識できるようにする。							
学習内容と進め方		数と式、2 次関数について学習する。教科書とプリント、問題集を利用した学習を中心として行う。内容によってグループでの課題解決学習も行う。							
学 習 の 留 意 点		（１）常に復習し、反復練習によって、問題を解く力を身につけさせる。 （２）課題解決学習に取り組み、考察を深めさせる。							
月	単 元	予定時数	具体的な学習内容	評価の観点			備考（評価項目）		
				1	2	3			
4	第 1 章 数と式 第 1 節 数と式	15	・多項式（加法・減法・乗法） ・展開の公式（展開の工夫）	○		○	・単項式, 多項式とその整理の仕方に関心をもち、考察しようとする。 ・2 次の乗法公式や因数分解の公式を理解する		
5				○	○		・展開の公式を用いて、式を展開することができる。 ・式を多面的に捉え目的に応じた変形ができる		
6			・因数分解（いろいろな因数分解）	○		○	・因数分解の公式を用いて、式を因数分解できる。 ・課題学習へ主体的に取り組んでいる		
7	第 2 節 実数	12	・実数 ・根号を含む式の計算		○	○	・実数まで拡張する意義を理解し、無理数の四則計算ができる ・平方根の性質, 平方根の積と商などについて、一般化して考察できる。		
8	第 3 節 1 次不等式	12		○			・不等式の性質における不等号の向きを判断することができる。 ・不等式の解の意味や性質を理解し、解を求めることができる		
9			・不等号の性質 ・1 次不等式の解き方 ・連立不等式 ・不等式の利用	○	○		・連立不等式の解を求めることができる。 ・日常の事象を数学的に捉え、1 次不等式を問題解決に活用できる		
1 0	第 2 章 集合と命題	12		○		○	・集合と命題に関する基本的な概念を理解する ・課題学習へ主体的に取り組んでいる		
1 1			・集合と部分集合 ・共通部分、和集合、補集合	○		○	・共通部分, 和集合, 補集合を求めることができる。 ・集合の考えを用いて論理的に考え、簡単な命題の証明ができる		
1 2			・命題と集合 ・命題と証明	○	○	○	・課題学習へ主体的に取り組んでいる ・直接証明法では難しい命題も, 対偶や背理法を用いれば証明できることに興味・関心をもつ		
1	第 3 章 2 次関数	13	・関数とグラフ ・2 次関数のグラフ	○	○		・身近な問題を, 関数の式で表すことができる。 ・2 次関数の値の変化やグラフの特徴を理解する ・放物線のもつ性質に興味・関心を示し, 自ら調べようとする。		
2						○			
3	第 1 節 2 次関数とグラフ	6	・2 次関数の最大・最小	○		○	・2 次関数の最大値・最小値を求められる ・身近な問題を, 2 次関数の最大・最小の考えを活用して解決しようとする。 ・課題学習へ主体的に取り組んでいる		
評価方法		（１）評価の観点については下記の表の通りとする。 （２）具体的には定期考査、小テストの成績、プリントなどの演習・提出状況、学習活動への参加の仕方や態度などから評価する。							
評価の観点		観点	趣旨						
		1 知識・技能	数と式、二次関数における基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身につけている。						
		2 思考・判断・表現	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数と式、二次関数における数学的な見方や考え方を身につけている。						
		3 主体的に学習に取り組む態度	数と式、二次関数の考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。数と式、二次関数において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。						
評価基準		1 知識・技能	A 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している B 基本的な概念や原理・法則を体系的に概ね理解している C 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解が不十分である						
		2 思考・判断・表現	A 論理的に考察する力、本質を捉える力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身につけている。 B 論理的に考察する力、本質を捉える力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を最低限身につけている。 C 論理的に考察する力、本質を捉える力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身につけていない。						
		3 主体的に学習に取り組む態度	A 数学のよさを認識し、積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考えたりしようとしている。 B 数学のよさを認識し、数学を活用しようとしたり、粘り強く考えたりしようとしている。 C 数学を活用しようとしたり、粘り強く考えたりしようとしてできない。						